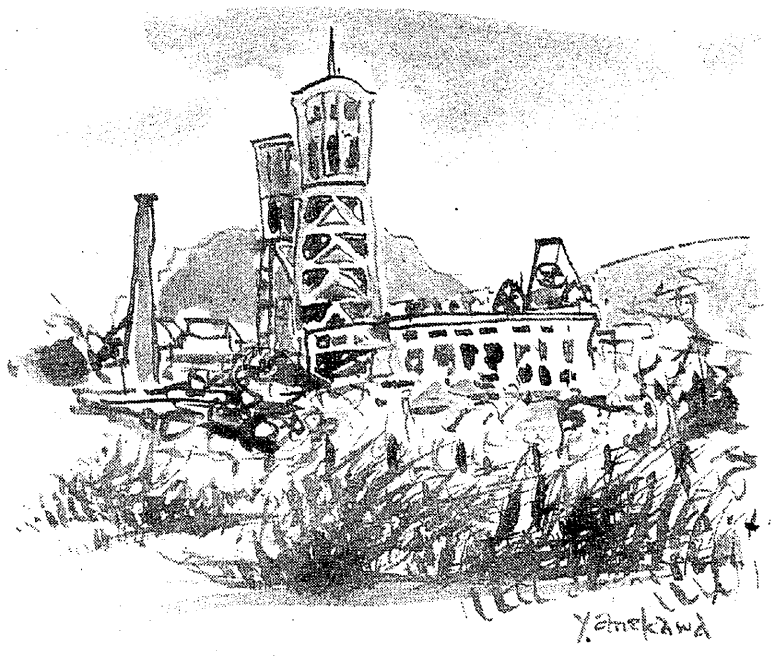
海と船と港



四山旧立坑

画　姉川良男

四山鉱の旧立坑。右側に第二坑がある。四山鉱は大正七年四月に開さくに着手、九年五月に完工した。この当時の三池炭鉱では、七千人の労働者が働いていた。四山鉱はその後昭和二十九年五月に着工された港沖立坑が三十三年に完工したことで四十年に移転し、現在は旧坑となり、一部の作業員が入昇坑している。この立坑とつらなる四山鉱正門では、三池闘争の中で久保清が暴力団の手で刺殺された。

「高島のやまの子らの叫び」

五四三人の作文、画を高島労組が出版

「どうして、たんこうのしごとをやめないといけないのですか。どうしてですか。わたしには、さっぱりわかりません。おしえてください。わたしは、たかしまがすきです。どうかやめないでください。おねがいです」（高島小学校一年・はせがわ　きみ）

「……なぜ炭鉱を閉山するというように政府は言うのですか。よく考えて下さい。今は、外国が日本に石炭を輸出しているからいいけれど、もし、外国から輸出してもらえなくなったら、どうするんですか。その時にもう一度炭鉱をやりなおすと言っても、人は集まらないだろうし、費用は今の何十倍もかかると思います。それだけでなく、他にもいろいろ問題がでてくるだろうと思います。今はいいけれど、後はどうするんですか。こんなことを含めて考えて下さい……」（高島中学校三年・福本めぐみ）

任意に引用しましたが、高島小学校、高島中学校の全児童が「閉山させないで」と、中曽根首相に訴えた手紙を書き、それを高島労組がまとめた本が出版されました。

この子どもたちの声も届かず、百五年の歴史をもつ、わが国でもっとも古い炭鉱、三菱高島炭礦は閉山になりました。

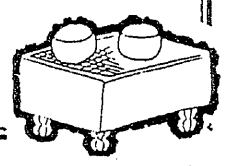
収録されているのは作文五四三、そのほかに画や写真がたくさん収められています。閉山によっておこる父の失業、子供たちの転校や進学、将来のことなどを憂える姿が浮き彫りにされます。

この本は高島労組が出版したもので、A5版（月刊雑誌の大きさ）で五一〇頁。実費の一、三五〇円でお分けします。分会で購読希望を募っていますので、ぜひご協力下さい。

上の表紙に、写真、絵、図版、階段のスロープ、キーパー、左のスロープ、右のスロープ、中のスロープ、足場。

みなさん、ぜひこの文集を読んで下さい。

囲碁愛好会が新春囲碁大会



とき　1月18日（日）午前9時
ところ　組合事務所
昼食と賞品を準備します。

定年退職予定者説明会のお知らせ

恒例のように六十二年度定年退職予定者を対象にして、退職金、厚生年金、雇用保険などについての説明会を開きますので、対象者はご出席下さい。

日時　一月二十五日（日）　午前九時
場所　労働金庫大牟田支店二階
※　資料は当日お渡しします。昼食も準備いたします。

姿見

市長選の勝利を

東ブロック　平田千佐子

門松もとりはらわれようというこの頃ですが、その門松の梅の、つぼみが咲きかけて玄関を匂わせています。

私の主人も定年退職になって、一年を過ぎました。一時は、なんとなく手持ち無沙汰で病気がちになりましたが、やっとこさで現在は元気になり一安心です。

それはともあれ、大牟田・荒尾の両市の市政をめぐる問題は大変です。私は、大きなことは言いたくありませんが、商業新聞を見ましてもいかに今回の汚職をめぐっての選挙が重要かが分かります。

出直し市長選挙ではぜひ革新市長をと思っています。

私たち主婦の願いは、福祉を重視して軍事費を削減し、高齢化社会に向かって経済的に豊かで、老後を楽に暮らせるような政治です。そのためにはどうしても革新市長を実現しなければなりません。お互いに手をとり合って頑張りましょう。

×　×

生活苦をいっそうつのらせる合理化がつづいています。台所からの声をお寄せ下さい。（編集部）

7つのまちがい

＜問題＞下の絵は上と7カ所のまちがいがあります。どこでしょう。（印刷のよごれやかすれはまちがいにははいりません）答えは4面別項に。　出題・西山　進

大増税と大軍拡へ

一九八七年度政府予算案

戦後最悪の予算案

八七年度政府予算案は、一般会計五十四兆一千十億円で前年度当初予算比〇・〇二%増と三十二年ぶりの低い伸びとなりました。その特徴は政策的経費である一般歳出を五年連続でマイナスに抑えながら、最悪の大増税である「売上税」導入、新たな軍拡への幕開けとなる軍事費のGNP（国民総生産）比一%枠突破を盛り込んだこと。一方で福祉、教育、農業、中小企業、住宅など国民生活関連分野をバッサリ削っていることです。

まず軍事費は総額三兆五千百七十四億円で前年度比五・二%増。政府開発援助費（五・八%増）と並ぶ突出ぶりです。対GNP比は一・〇〇四%で、三木内閣当時、軍拡の〝歯ドメ〟として政府が決めた一%枠を撤廃、新たな軍拡への道を開くものになりました。

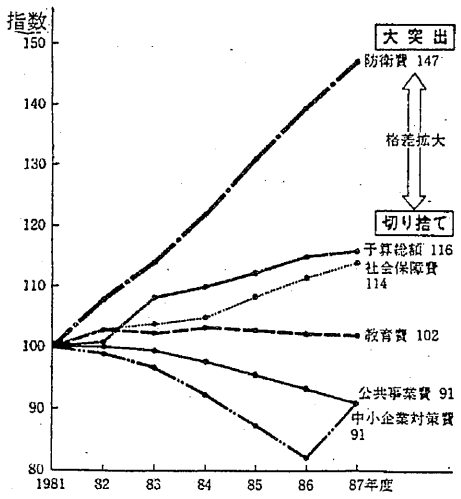
中身をみると、P3C対潜哨戒機九機、F15戦闘機十二機、護衛艦二隻など正面装備がほぼ要求通り認められたほか、施設庁関係で、反対の強い三宅島の米軍機飛行訓練場の調査費などに三億二千万円をあてています。

ツケ払いである後年度負担分は一一・〇%も増え、総額二兆六千億円に達しました。

もう一つの問題点は「売上税」という名の大型間接税導入による大増税路線を敷いたことです。原則として全ての商品、サービスに当面五%の税金をかけようというもので、将来の税率引き上げも必至。増税のための「魔法の杖」となるわけです。

増税の狙いについては、「一%枠突破と重ね合わせてみると、防衛費増強のためなのか、という印象をぬぐい切れない」（毎日）との指摘も出ています。

一方、国民生活に関連する分野では文教（〇・二%減）、住宅（一一一%減）、農林水産（三・六%減）、中小企業対策（三・八%減）と軒並みマイナス。社会保障も二・六%の低い伸びに抑えられました。円高の影響で切実な内需拡大策は大企業中心の「民活」プロジェクト中心で期待できそうにありません。こうして八七年度政府予算案は、大軍拡と大増税に踏み出す戦後最悪の予算案になっています。

天井なしの軍事費突出

（1981年を100とした比較）